

WEALTH GROWTH 月間運用実績レポート

(2025年9月)

■ 9月のパフォーマンス

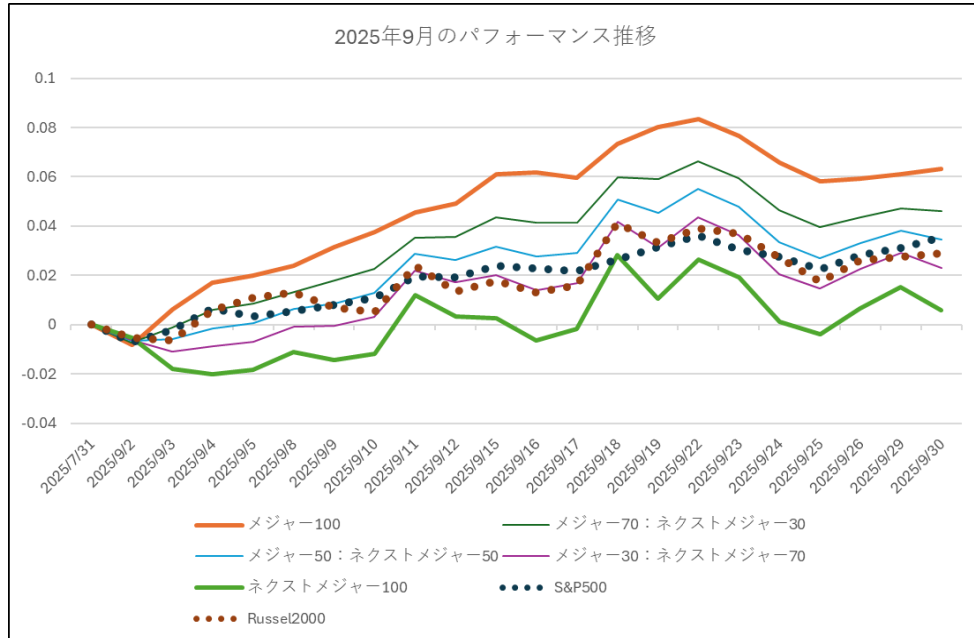
➤ ファンドの月間パフォーマンス

メジャー100	+6.32%
ネクストメジャー100	+0.61%

➤ 各指標の月間騰落率

S&P 500	+3.53%
Russel2000	+2.89%
NASDAQ	+1.87%
NY ダウ	+5.61%

➤ 運用コース毎のパフォーマンス



順位	戦略名	月間パフォーマンス	ベンチマーク	ベンチマーク (%)	超過収益
1位	メジャー100	6.32%	S&P500	3.53%	2.79%
2位	メジャー70：ネクストメジャー30	4.61%	S&P500 (70%) Russel2000 (30%)	3.34%	1.27%
3位	メジャー50：ネクストメジャー50	3.46%	S&P500 (50%) Russel2000 (50%)	3.21%	0.25%
4位	メジャー30：ネクストメジャー70	2.32%	S&P500 (30%) Russel2000 (70%)	3.08%	-0.76%
5位	ネクストメジャー100	0.61%	Russel2000	2.89%	-2.28%
	全戦略平均	3.46%			0.25%

※各指標のベンチマークについて

メジャー100 のベンチマークは S&P500 、ネクストメジャー100 のベンチマークはRussel2000 合成戦略は保有比率でベンチマークを合成したもの

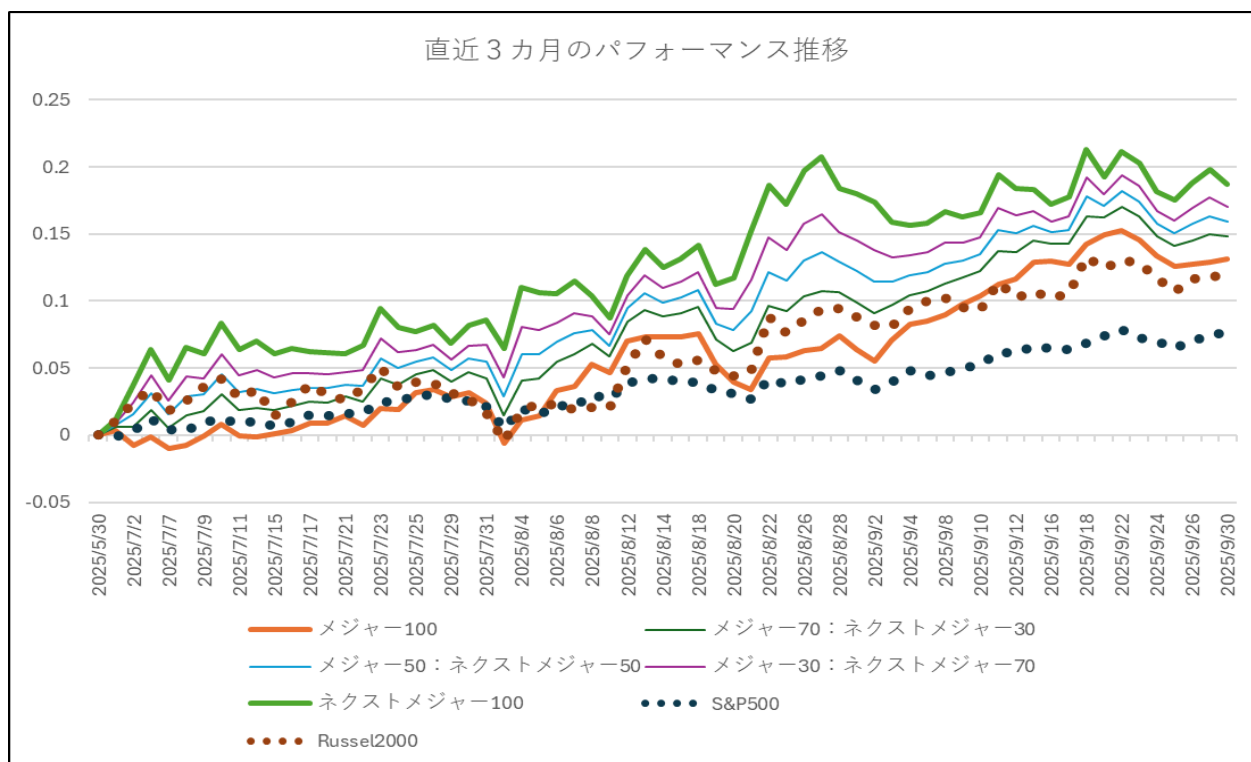
※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

Wealth Growth（ウェルスグロース）で最も月間成績が良かった戦略は、「メジャー100」でした。月間で+6.32%、対ベンチマーク超過収益では+2.79%となり、ベンチマークを大幅にアウトパフォーム！！

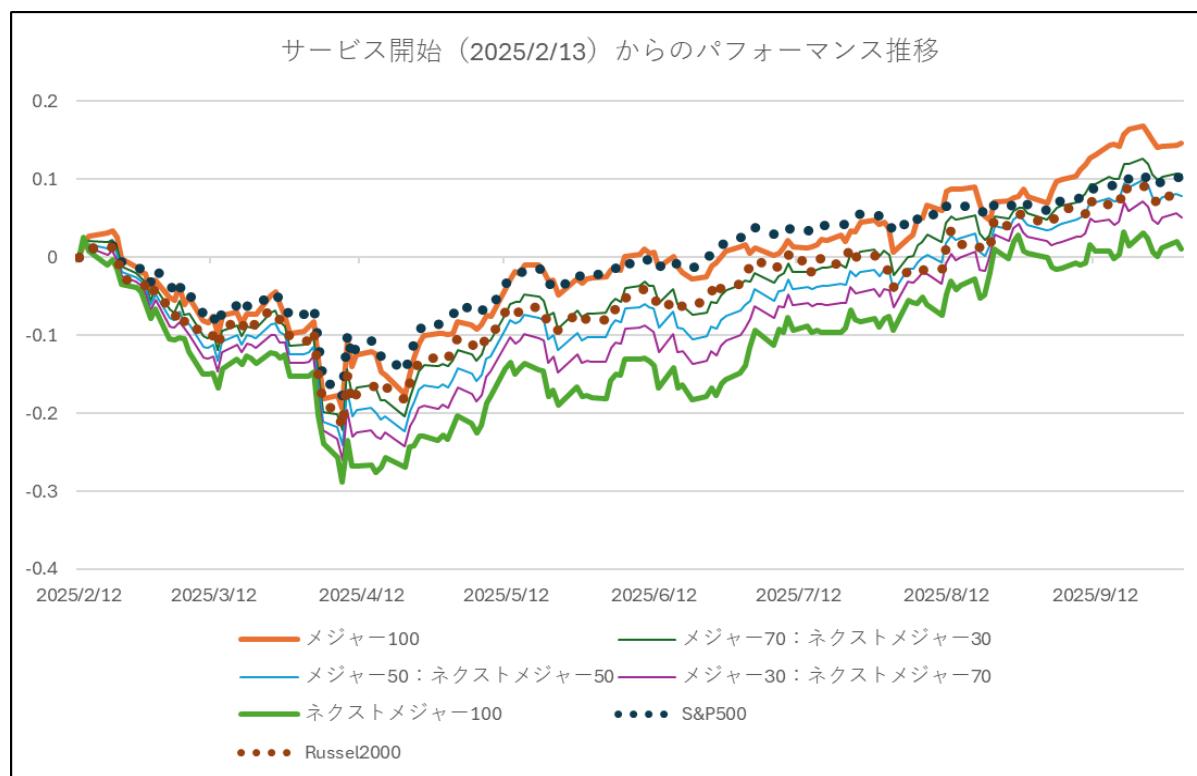
また、対ベンチマーク超過収益で最も月間成績が良かった戦略は、同様に「メジャー100」でした。

➤ 過去 3 カ月のパフォーマンス推移グラフ



➤ 設定来のパフォーマンス推移グラフ

WealthGrowth（ウェルスグロース）の2025年2月13日（サービス開始）から2025年9月末までの運用実績です。



※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

➤ 設定来の騰落率

	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	設定来
メジャー100	6.32%	13.15%	26.70%	-	14.61%
ネクストメジャー100	0.61%	18.69%	19.30%	-	1.07%
S&P500	3.53%	7.79%	19.18%	-	10.52%
Russel2000	2.89%	11.93%	21.08%	-	8.01%

■ 9月の市況概況

➤ 米国市場

9月の米国市場は、FRB（連邦準備制度理事会）の「予防的利下げ」への転換と、それに伴うAI関連メガテック株への資金集中がテーマとなり、主要株式指数は歴史的な高値圏を維持・更新するリスクオンのゴルディロックス相場が継続しました。一方で、トランプ政権によるFRBへの独立性侵害の懸念や、関税政策によるインフレ再燃リスクが、市場の不確実性を高める要因として注視されました。

・第1週（9月1日～9月5日）／ダウ平均：△0.32 % S&P 500：+0.33% NASDAQ：+1.14%

週初は続落しましたが、週終盤には雇用指標の悪化を背景とした利下げ期待で反発し、S&P500が最高値を更新しました。週末発表された8月の非農業部門雇用者数が予想を大幅に下回る2.2万人増に留まり、失業率が4.3%に悪化したことを受け、市場では0.5%の大幅利下げ観測が浮上しました。ISM製造業景況指数も6ヶ月連続で50を下回り景気減速を示唆する中、トランプ関税違法判断による財政懸念から米国10年債利回りが一時4.3%台に上昇する場面もありました。個別では、アルファベットやブロードコムが買われました。

・第2週（9月8日～12日）／ダウ平均：+0.95 %、S&P 500：+1.59 %、NASDAQ：+2.03 %

雇用統計の年次改定暫定値で91.1万人の大幅下方修正が公表され、労働市場の減速が想定以上に進んでいることが判明し、利下げ観測が一層加速しました。ナスダックとS&P500は連日最高値を更新しました。米10年債利回りは一時4%を割り込み、市場はFOMC（連邦公開市場委員会）での利下げ開始を強く織り込みました。8月のPPI（生産者物価指数）は予想外のマイナス、CPI（消費者物価指数）は予想通り前年比+2.9%であったものの、関税の影響による今後のインフレ再加速リスクは警戒されました。個別では、アルファベットが時価総額3兆ドルを突破、オラクルがOpenAIとの大型契約などで急騰し、AIブームが相場を牽引しました。

・第3週（9月16日～9月19日）／ダウ平均：+1.05 %、S&P 500：+1.22 %、ナスダック：+2.21 %

FRBはFOMCで市場予想通り9ヶ月ぶりとなる0.25%の利下げを決定しました。パウエル議長は今後の追加利下げに慎重姿勢を示したものの、ドットチャートでは年内あと2回の利下げが示唆され、安心感が広がり主要3指数は連日最高値を更新しました。トランプ政権は利下げ慎重派のクック理事解任を巡り最高裁に上訴するなど、FRBの独立性への政治介入が市場のリスク要因として懸念されました。個別ではNVIDIAが業績不振のIntelに50億ドルを出資し、Intelは20%超急騰。景気底堅さを示す8月小売売上高（前月比+0.6%増）も株価を支えました。

・第4週（9月22日～9月26日）／ダウ平均：△0.15 %、S&P 500：△0.31 %、ナスダック：△0.65 %

週初は最高値更新が続きましたが、その後は調整局面を迎え、主要3指数は3日続落しました。パウエル議長が追加利下げに慎重姿勢を示し、株価の「かなり高く評価」との認識を表明したことで、市場の利下げ期待が後退しました。同時に、4-6月期実質GDP確定値が年率+3.8%に大幅上方修正されるなど、景気の底堅さが確認されたことも、追加利下げ観測の後退を裏付けました。この結果、高値警戒感が意識され、NVIDIAやオラクルといった大型ハイテク株に利益確定売りが集中しました。米10年債利回りは4.175%に上昇しました。

・第5週（9月29日～9月30日）／ダウ平均：+0.33 %、S&P 500：+0.67 %、ナスダック：+0.78 %

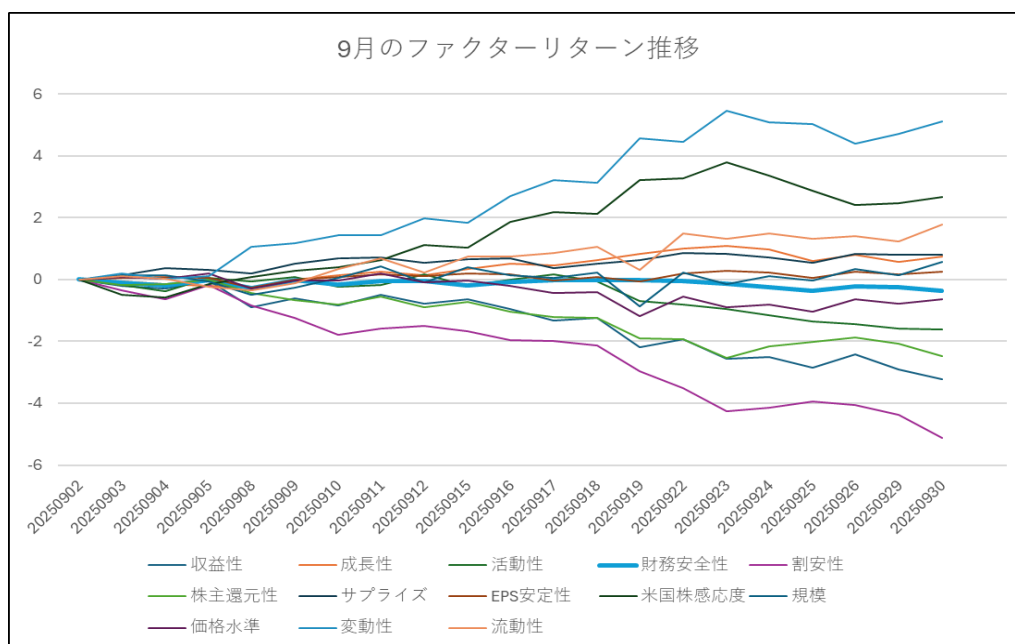
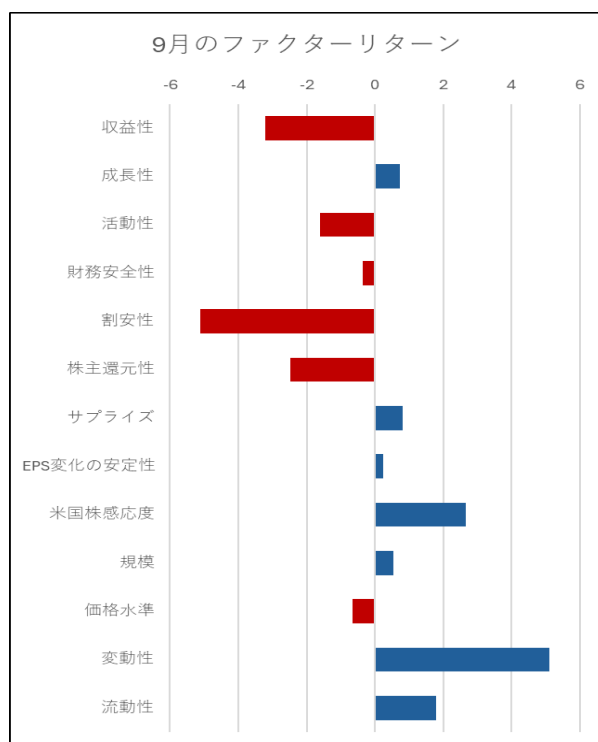
9月30日の取引では、主要3指数が揃って4日ぶりに反発し、ダウは最高値を更新しました。FRBが最も重視する8月のPCE物価指数が市場予想通り（総合+2.7%、コア+2.9%）に推移したことで、年内の追加利下げへの期待が再燃しました。一方で、10月1日を期限とするつなぎ予算交渉が難航し、政府機関閉鎖リスクが高まったことから、安全資産としての金先物は連日最高値を更新しました。個別では、メタとの大型契約を発表したコアウィーブや、薬価引き下げに応じたファイザーが急騰し、相場を牽引しました。

■ 月間パフォーマンスの背景

➤ ファクター動向

9月は、ハイリスクの好業績大型グロース株が堅調となりました。

ファクターリターンの推移を見ても、変動性ファクター・米国株感応度ファクター・サプライズファクター・成長性ファクター・規模ファクターがプラスとなる一方、割安性ファクター・株主還元性ファクターが大きくマイナスとなり、主要3指数が連日最高値を更新する一方で利下げスタンスが定まらないなか、利下げ期待から上昇していた小型バリュー株が利食いにも押される一方、AI関連株を中心とする指数連動性の高い好業績大型グロース株へ資金が向かったことが見て取れます。

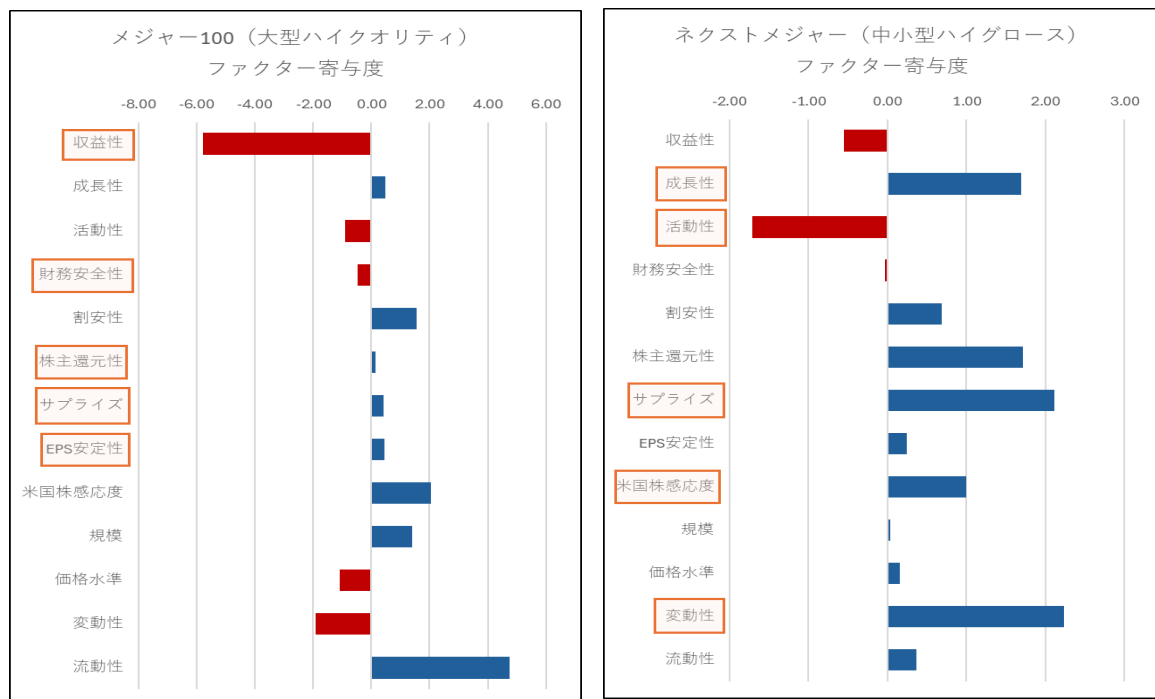


➤ ファクター寄与度

その様な市況環境のなか、Wealth Growth（ウェルスグロース）がご提供している5戦略は、全ての戦略がプラスとなり、3戦略がベンチマークをアウトパフォームする結果となりました。

メジャー100（大型ハイクオリティ） がS & P500をアウトパフォームした要因は、メジャー100の特徴であるハイクオリティ特性の内「好業績（＝ポジティブ・サプライズ）、EPS安定」がプラスに寄与し、さらに、大型及び高米国株感応度（＝ハイベータ）特性もプラスに寄与したことです

ネクストメジャー100（中小型ハイグロース） が Russel2000 をアウトパフォームした要因は、ネクストメジャー100ポートフォリオの特徴であるハイ・グロース特性のなかの「好業績（＝ポジティブ・サプライズ）、高成長、高価格変動（＝ハイリスク）、高米国株感応度（＝ハイベータ）」が大きくプラスに寄与しものの、高活動性及び中小型特性が大きく足を引っ張ったことです。



➤ 個別銘柄寄与度

メジャー（大型ハイクオリティ）

寄与度上位5銘柄

No	Tiker	銘柄名	組入比率	寄与度	
1	MU	マイクロン・テクノロジー	5.6%	2.01%	
	マイクロン・テクノロジー社は、革新的なメモリおよびストレージソリューションの提供に従事しています。AIアプリケーションに不可欠な高帯域幅メモリ（HBM）製品に対する圧倒的な需要に主に牽引され、非常に強いパフォーマンスを示しています。同社の2025年度第4四半期および通期の過去最高益は、堅調なガイダンスと相まって、進行中のメモリ・スーパーサイクルにおける極めて重要な役割担っています。				
2	GOOGL	アルファベット	10.7%	1.57%	
	アルファベット社は、ソフトウェア、ヘルスケア、輸送、その他のテクノロジーを手掛ける持株会社です。人工知能とクラウドサービスにおける堅調な進歩と戦略的ポジショニングにより、強気な見通しを示しています。同社は、Nestのような消費者向け製品から、最近英国国防省との重要な契約を獲得したGoogle Cloudのような企業向けソリューションまで、エコシステム全体にAIを展開・統合し続けています。				
3	PLTR	パランティア・テクノロジーズ	8.3%	1.29%	
	パランティア・テクノロジーズ社は、顧客の中央オペレーティングシステムとして機能するソフトウェアプラットフォームの構築と展開を行う事業に従事しています。最近、重要な政府および産業部門での地位を確固たるものにする、7億5000万ポンドの英国防衛AI契約やボーイングとのパートナーシップ拡大を含む、大規模な契約獲得により、目覚ましい事業の勢いを示しました。これらのAIプラットフォームの大規模な展開は、堅調な第2四半期決算と好調な収益ガイダンスと相まって、強固なファンダメンタルズの触媒となっています。				
4	AAPL	アップル	10.2%	1.08%	
	アップル社は、カリフォルニア州クパチーノに本社を置くアメリカの多国籍テクノロジー企業であり、消費者向け電子機器、コンピューターソフトウェア、およびオンラインサービスを設計、開発、販売しています。新製品のiPhone 17発売直後はAIへの焦点が限定的だったため一時的に下落しましたが、その後、需要に関するポジティブなシグナルにより強く反発しました				
5	NVDA	エヌビディア	9.7%	0.88%	
	エヌビディア社は、コンピューターグラフィックスプロセッサ、チップセット、および関連するマルチメディアソフトウェアの設計と製造を手がけている。先週、堅調な第2四半期決算とAIチップへの継続的な需要に牽引され、過去最高の時価総額4.53兆ドルを達成し、好調な週を終えました。同社の革新的な製品パイプライン（今後登場するRubin CPXチップに代表される）と戦略的投資は、活況を呈するAI分野におけるNVIDIAのリーダーシップをさらに確固たるものにしています。				

ネクストメジャー（中小型ハイグロス）

寄与度上位5銘柄

No	Tiker	銘柄名	組入比率	寄与度
1	DOMO	ドモ	10.8%	1.18%
	ドモ社は、経営管理ソフトウェアソリューションの設計、開発、販売を手掛けています。AIおよびデータプラットフォームで、引き続き堅調な事業パフォーマンスを示しており、大きな業界評価を得て、主要な顧客導入を確保しています。			
2	MVST	マイクロヴァスト・ホールディングス	2.3%	0.86%
	マイクロヴァスト・ホールディングス社.は、先進バッテリー技術企業です。第2四半期の好決算、EVおよびエネルギー貯蔵需要に牽引された中国での大幅な生産能力拡大、そして記録的な売上総利益率とEBITDAの黒字転換による収益性の目覚ましい改善が評価されています。			
3	ESPR	エスペリオン・セラピューティクス	5.5%	0.73%
	エスペリオン・セラピューティクス社は、高LDLコレステロールに対する経口治療薬の開発と商業化を行う製薬会社です。予想を上回る第2四半期決算と、戦略的なグローバルパートナーシップに支えられた米国売上高の大幅な急増に象徴される、堅調な業績を示しました。主要製品である NEXLETOL®の日本における最近の規制当局による承認は、心血管疾患予防の世界第3位の市場へのアクセスを開き、将来の大きな成長を約束する重要な触媒と見られています。			
4	CLFD	クリアフィールド	10.4%	0.70%
	クリアフィールド社は、光ファイバー保護製品の設計、製造、および販売を手掛けています。需要の高いコミュニティブロードバンド光ファイバー接続分野におけるリーダーシップの地位は、同社が市場全体を上回るパフォーマンスを発揮することを可能にすると見られています。			
5	ALHC	アライメント・ヘルスケア	10.5%	0.50%
	アライメント・ヘルスケア社は持株会社であり、そのメディケア・アドバンテージ・プランを通じて、高齢者や、慢性疾患を持つ虚弱な人々など、最も支援を必要とする方々にカスタマイズされたヘルスケアソリューションを個人消費者中心のプラットフォームで提供しています。健康政策の主要人物であるマット・アイルズ氏の任命と、広範なリーチと特典を目的とした堅牢な2026年メディケア・アドバンテージ・プランの発表により、強力な戦略的ポジショニングを示しました。これは、将来の収益成長と市場リーチの拡大の可能性を織り込み始めると見られています。			

■ Wealth Growth 戦略の目的・特色

1. 目的

予測が困難な市場構造の変化（金利・為替などの外部要因）の影響を極力排除し、S&P500を凌駕するパフォーマンスを目指します

2. 戦略の特色

特色1：市場構造の予測を必要としない、全てのレジームで機能する汎用性の高いマルチファクターモデルによるクオンツ運用を行います

特色2：ニューヨーク証券取引所及びNASDAQに上場する約5,000銘柄の詳細な市場及び財務データを活用します

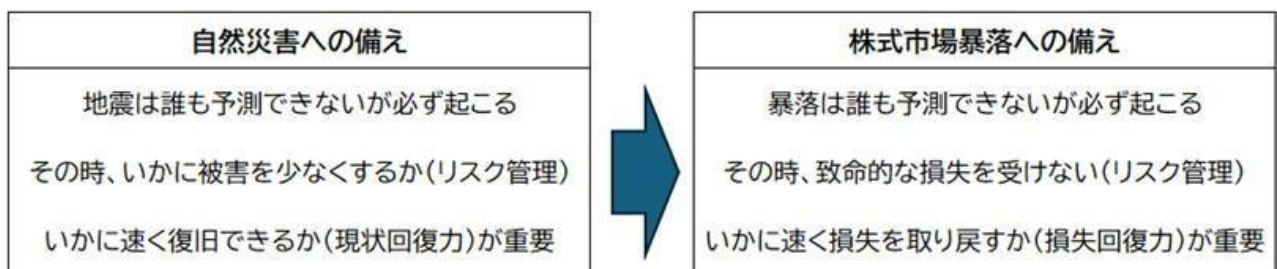
特色3：銘柄選択において、大型株（Major）では「高収益性」「高EPS安定性」「高財務安全性」「高株主還元性（＝高配当）」「高サプライズ（＝好業績）」によるハイ・クオリティ特性のモデルを活用、中小型株（Next Major）では「高成長性」「高活動性（＝高い総資本回転率）」「高サプライズ（＝好業績）」「高米国株感応度（＝ハイベータ）」によるハイ・グロース特性のモデルを活用します。

特色4：組入れ銘柄数は20～25銘柄程度の集中投資、業種分散は市場構成比並みとし、リスクはS&P500±10%程度となるよう毎月リスク調整のリバランスを行います。

3. 戦略のコンセプト

・Wealth Growth（ウェルス グロース）のコンセプトは、誰もできない将来の予測よりも、

「リスク管理と損失回復力を重視した運用で資産を成長させる」ことにあります。



・損失の回復力が運用にとって極めて重要な理由は、

「損失よりも、利益が大きい投資」を続けていれば、いずれ利益が損失を上回る確率が高い運用となるためです。

・回復力を示す運用指標ソルティノ・レシオ※を最大化

ソルティノ・レシオの最大化のために、AIにファクターの組み合わせを見つけ出させた結果、下記が、市況の予測を必要とせず、全ての市況で機能することが分かりました。

※ソルティノ・レシオとは、リターンの方リスクのみの標準偏差を利用し損失のみに注目して効率を評価する尺度です。計算式は、年率換算リターン／年率換算下方リスク。

① 大型株（Major）

「高収益」×「EPS安定」×「財務健全」×「高配当」×「好業績」といった、

ハイ・クオリティ特性あるファクターを選択し、本質的に価値の高いハイ・クオリティ銘柄群に投資します。

② 中小型株 (Next Major)

「高成長」×「高活動」×「好業績」×「ハイベータ」といった、

ハイ・グロス特性あるファクターを選択し、成長性の高いハイ・グロス銘柄群に投資します。

4. ファクターの説明

Wealth Growth (ウェルス グロース) は、ファクターに基づく運用を行っており、ファクターは以下を採用しています。

	ファクター	代表的ファクター構成指標
1	収益性	売上高営業利益率、ROE、ROA、等
2	成長性	売上高成長率、経常利益成長率、等
3	活動性	総資本回転率、等
4	財務安全性	財務レバレッジ、CF負債比、等
5	割安性	経常利益株価比、自己資本株価比、等
6	株主還元性	配当利回り、等
7	サプライズ	経常利益修正率、等
8	EPS安定性	1年EPS変化の安定性、等
9	米国株感応度	米国株感応度60日間、等
10	規模	上場時価総額、等
11	価格水準	株価、等
12	騰落率	60日騰落率、等
13	変動性	ヒストリカルボラティリティ60日、等
14	流動性	売買代金20日平均、等

5. リスク管理

Wealth Growth (ウェルス グロース) は、回復力が高いポートフォリオを構築する際の最適化条件として、

- ① 銘柄数を、20～25 銘柄としています
- ② 1 銘柄、10%以上保有しないようにしています
- ③ 特定業種に偏重しないようにしています、
- ④ 上記の様な、十分なリスク分散を考慮した上で、損失回復力が最大となるよう、AI による最適化を行っています。
- ⑤ また、エクスポージャーを監視し、ポートフォリオのリスク特性を維持するよう、定期的にリバランスを行いリスク管理を行っています。

以上

※本レポートは、2025 年 10 月 2 日時点の情報に基づき作成されております。

(提供：株式会社スマートプラス)

免責事項

ご留意事項

「WEALTH GROWTH」は、株式会社スマートプラスが提供する投資一任運用サービスです。Ｊトラストグローバル証券株式会社は「WEALTH GROWTH」の業務委託先として、お客様と株式会社スマートプラスとで交わす投資一任契約締結の媒介を行っております。

「WEALTH GROWTH」へのお申込、契約、お取引に関するお客様の情報に関して、株式会社スマートプラスより当社は媒介業務の範囲で業務委託先として個人情報の共有を受けております。

<業務内容について>

Ｊトラストグローバル証券株式会社は、本サービスにおける株式会社スマートプラスとお客様との間の投資一任契約の締結に係る媒介を行う役割を担い、以下の業務を行います。株式会社スマートプラスは、投資運用業を行う役割を担い、以下の業務を行います。

【Ｊトラストグローバル証券株式会社】

- ・ 対面または電話等による投資一任契約等および投資一任サービスの内容の説明や契約締結の媒介に係る勧誘
- ・ 口座開設画面や投資一任運用サービス画面への誘導・操作の案内
- ・ 入金状況・取引状況に関するお客さまから照会への対応
- ・ 株式会社スマートプラスからお客さまに提供される各種報告書等に関するお客さまからの照会への対応
- ・ 株式会社スマートプラスから提供されると投資一任運用サービスに係るシステム等を経由して取得可能な情報に基づくお客さまからの照会等への対応（入出金日、取引日、個別銘柄の売買内容等）
- ・ 投資一任運用サービスに基づきお客さまに提供されるポートフォリオのパフォーマンス、組入銘柄の内容やパフォーマンス等に関する客観的な情報等の提供

【株式会社スマートプラス】

- ・ 投資一任契約の説明および締結（契約締結前書面、契約締結時書面の交付）
- ・ 入出金に係る手続き
- ・ 投資一任運用サービスに係る運用ポートフォリオの構築・リバランスに係る売買の執行
- ・ 取引および残高に係る報告および運用に係る報告

重要事項

<手数料など諸費用について>

「WEALTH GROWTH」をお客様が利用するに当たり、以下の手数料を負担していただきます。詳細は、株式会社スマートプラスが電磁的方法等によりする契約締結前交付書面等にてご確認ください。

- ・ 購入時手数料（運用コース増額申込時に、増額金額に対して負担していただく費用です。投資環境の説明や情報提供等、ならびに契約締結に必要な事務コストの対価としてお支払いいただく費用となり、業務委託を行っている場合、株式会社スマートプラスから業務委託先に支払う費用が含まれます。）

- サービス利用料（運用資産の時価評価額に対し負担していただく費用です。ポートフォリオのリバランス（銘柄の入れ替え等）、各種レポートや報告書の作成等、およびシステム運営等に必要コストの対価としてお支払いいただく費用となります。）

<投資一任契約（ウェルスグロース）に係るリスクについて>

本サービスにおける投資一任契約に基づく運用は、値動きのある有価証券（米国株式または日本株式の個別銘柄）を投資対象としているため、当該有価証券の上場市場における取引価格の変動や為替の変動等により運用資産の価値が変動します。従って、本サービスは投資元本が保証されるものではなく、投資一任契約に基づきお客様からお預かりした資産の当初の評価額（投資元本）を下回ることがあります。本サービスにおける主なリスクは以下のとおりです。ご契約に当たっては契約締結前交付書面をよくご確認ください。

【相場変動リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する米国または日本の上場株式（コースにより異なります。以下、「上場株式」という。）は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動に伴い価格が変動します。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【信用リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する上場株式の発行者などの信用状況に変化が生じた場合、当該上場株式の市場価格が変動することによってお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【流動性リスク】

上場株式は、市場環境の変化等により取引に支障をきたし、売却できない場合があります。本サービスはその影響を受けて換金できないリスクがあります。

【カントリーリスク】

通貨を発行する国家固有の政治的・経済的な変動等により投資元本を割込んだり、途中売却が困難になる可能性があります。また、政府等による突発的な取引規制が行われた場合、円を含む他通貨への交換に影響がでる可能性があります。

【為替リスク】（米国株式コースおよび米ドル預かり金のみ）

本サービスにおける投資一任契約に基づき投資運用される米国上場株式および米ドル預かり金（以下、「米国上場株式等」という。）は、為替相場（円貨と外貨の交換比率）が変化することにより、為替相場が円高になる過程では円貨換算した価値は下落し、逆に円安になる過程では円貨換算した価値は上昇します。したがって、お客様が所有するポートフォリオを構成する米国上場株式等の日々の円貨換算の時価評価時および売却時の為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがあります。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。また、本サービスにおける各種手数料等の費用の徴収に伴い為替取引を行う際に、為替相場の変動により円貨換算した費用の額は変動します。

【投資一任契約の媒介業者】  Jトラストグローバル証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第35号 加入協会／ 日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会	【口座管理機関】  株式会社スマートプラス 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3031号 加入協会／ 日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会
--	---